

転換畑におけるオオクサキビとイタリアンライグラスの連続栽培

藤原帝見・佐田利行 (長崎県総合農林試験場)

Sadami FUJIHARA and Toshiyuki SATA : Successive Cultivation of Fall Panicum as Summer Forage and Italian Ryegrass as Winter Forage in Drained Paddy Field

長崎県南高来郡吾妻町は有明海の諫早湾に面し、県下でも有数の肉用牛産地であり、干拓地の集団転換畑でも排水の良いところは背刈りのソルガムやトウモロコシが多い。しかし、堤防に近い供試圃場周辺は排水が悪いために夏作物は作れず、冬作のイタリアンライグラスのみが栽培されている。そこで夏作に耐湿性の強いオオクサキビを導入し、イタリアンライグラスと組合せた茨木らの連続栽培¹⁾の実用化について検討したので報告する。

1. 試験方法

1) オオクサキビと前作物との組合せ 供試作物と品種はオオクサキビ大分系、イタリアンライグラス普通種、二条大麦カワサイゴク、エンバク日向黒を供試した。播種方法は1982年10月28日にオオクサキビとイタリアンライグラスを各4 kg/10 a、その他は8 kg/10 aをいずれも全面全層まきにした。施肥法は基肥3要素各7.1 kg/10 a、追肥はオオクサキビのみ6月15日と8月10日にそれぞれ基肥と同量を施用した。1区面積は6 aで1区制とした。

2) イタリアンライグラスの品種とオオクサキビの生育収量 供試品種はミナミワセ、ワセユタカ、ワセアオバ、普通種およびマンモスA、耕種法は1981年と'83年のいずれも10月25日に刈取りと同時にオオクサキビの種子を自然落下させたあと、イタリアンライグラスの各品種4 kg/10 aを基肥とともに全面全層播きした。施肥法は前記試験とはほぼ同様とした。1区面積は4 aで1区制。

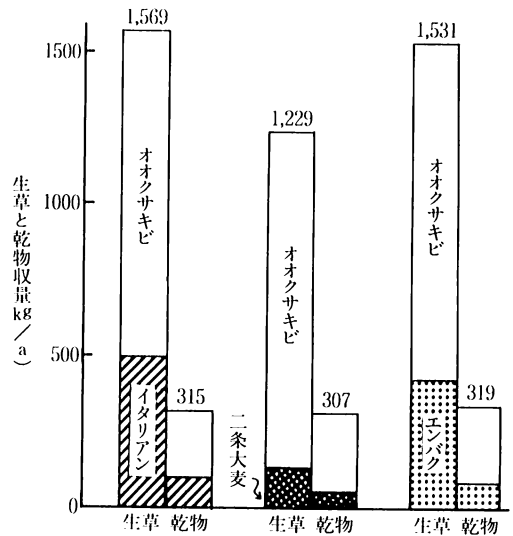
2. 試験結果および考察

1) オオクサキビと前作物との組合せ、オオクサキビは前作物の立毛中に休眠からさめて出芽するため、前作物の種類や生育に影響される。前作物とオオクサキビの収量を第1図に示した。オオクサキビの収量はエンバクと二条大麦あとがやや多く、植生交替もよい。しかし、二条大麦は湿害のため低収であった。年間収量はオオクサキビにエンバクかイタリアンライグラスを組合せた区が多いが、黒江らの報告²⁾と同様に耐湿性の強い後者との組合せが適している。

2) イタリアンライグラスの品種とオオクサキビの収量 オオクサキビと植生交替が順調にゆくイタリアンライグラスの適品種について検討した結果を第1表に示した。比較年次が異なり不正確ではあるが、オオクサキビの収量はマンモスAあとが普通種より低収であるほか品種間で大差ないものと考えられた。早生品種あとは出芽は早い、低温で生育が遅く、晩生あとは出芽後枯死しても条件がよくなると別の個体が遅れて出芽してくるの

で多少減収しても支障はないものと考えられた。

以上要するにイタリアンライグラスは早生か普通種を10月下旬にオオクサキビの最終刈りで落ちた種子の上に肥料とともに全面全層播きして5月下旬ころ刈り、オオクサキビは8月上旬と10月下旬に刈るとよいことがわかった。



第1図 オオクサキビと前作物の収量(1983年)

第1表 イタリアンライグラスの品種とオオクサキビの収量 (単位: kg/a, 1981~'84)

年次	試験区	イタリアン		オオクサキビ				
		第1回刈り		第1回刈り		第2回刈り		
		生草	乾物	生草	乾物	生草	乾物	
'81	ミナミワセーオオクサキビ	579	83.4	326	54.0	—	—	} 水害のため欠値
	ワセアオバ	661	100.6	283	52.4	—	—	
'82	ワセユタカ	682	100.0	290	52.2	—	—	
'83	普通種	522	113.3	381	68.1	275	59.5	
'84	マンモスA	528	123.0	330	56.0	233	55.0	

引用文献

- 1) 茨木和典・徳永初彦・小山信明: 農および園, 56, 1047-1053, 1981.
- 2) 黒江秀雄・恒吉利彦・原田満弘・西俊彦・石神信男・折田安行: 九州農業研究, 47, 168, 1985.